

発掘が語る虚空蔵山麓の中世

2017.3.18 松本市教育委員会 竹原 学

はじめに

1 2つの遺跡が語ること

- (1) 殿村遺跡は虚空蔵山麓に広がる宗教施設群だった
 - ア 南北東西 300m の範囲に雛壇状に広がる平場群は多数の僧房からなる寺院の姿か
 - イ 鎌倉に始まり戦国時代に終わる（本格的な平場造成は室町時代に開始）
 - ウ 石垣の多用は寺院の保有する高度な土木技術の現れか
 - エ 礎石建物と池庭が見せる平場の景観
 - オ 有力勢力の遺跡ならではの豊富な遺物・高級な遺物（特に茶道具が充実）
- (2) 虚空蔵山城は聖地に造られた城、宗教施設を取り込んで造られた
 - ア 聖地である山全体に砦を構える城
 - イ 城としては異質な空間の存在—「水の手」周辺の谷間の平場群こそこの城の中心か
 - ウ 古段階＝宗教施設（山の寺）から新段階＝山城へと変遷したか

2 2つの史料から中世の会田をさぐる

- (1) 「文祿3年絵図」から見える中世の会田と殿村遺跡・虚空蔵山城跡
- (2) 「御祓いくばり日記」から見える中世会田の武士・寺・人

3 虚空蔵山を中心とした中世の信仰世界をイメージする

- (1) 中世の会田…聖地の麓に発展した町
- (2) 信仰世界の広がり…聖地虚空蔵山から山麓へ

4 石垣は語る～殿村・虚空蔵山から松本平の山城へ

- (1) 松本平を中心に、信濃には石垣を構えた山城が数多くある
- (2) 殿村遺跡で松本平最古の寺院の石垣が見つかった
- (3) 室町時代の石垣と戦国時代の山城の石垣を比べる
- (4) 虚空蔵山城跡には寺院の石垣と山城の石垣の両方がある
- (5) 寺院の石垣から城郭の石垣へ…殿村遺跡と虚空蔵山城はそのカギを握る

終わりに





廣田寺
字系げ (系ヶ寺)
6D1
6D2



石積みのある中世造成跡(6次調査)
平場の拡張を繰り返しおこなったことがわかった



円形に廻る石積み遺構(4次調査)
養生田圃を大塚に検出、便所と考えられる



長安寺跡地の中世遺構(7次調査)
池をともなうお堂跡?青銅製の鏡が出土した



柵・土坑など中世の遺構(6次調査)
完形のかわらけをともなう大型の土坑を確認



1次調査区の遺構群(東から)
長大な石積みを見出し殿村遺跡の調査はここから始まった



石積みをともなう中世の造成跡を確認
礎石・柱穴・煙跡・石積み
集石遺構・土坑・溝
青磁・古瀬戸、地元産の土器、銭など

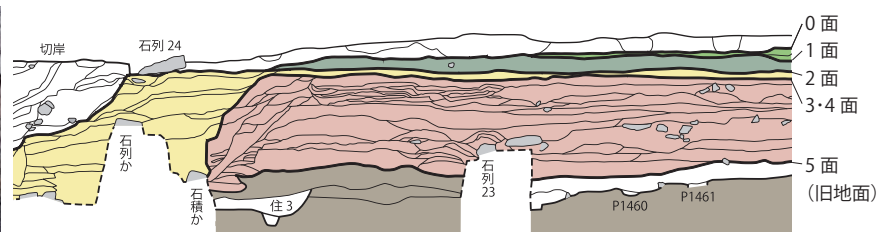
H28年度調査地(88坪)



殿村遺跡全体図



<姿を現した殿村遺跡の平場跡>



<平場の盛土と繰り返される造成の痕跡 (3A1)>



<平場や遺構を縁取る石垣>



<平場上のさまざまな遺構>